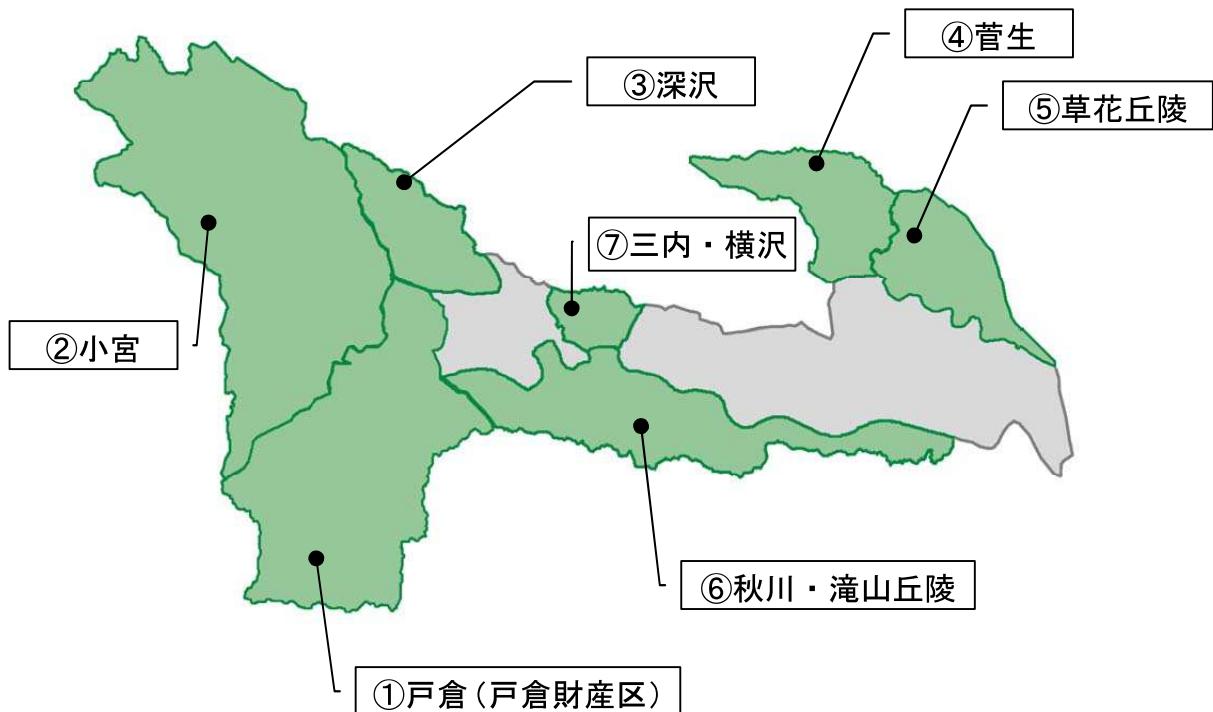


(3) 地区別森づくりの方向性

この構想の対象となる市域の森を地形、植生、資源の分布など（資料調査より）と町内会・自治会の単位などから、主要となる7つの地区に区分しました。

ここでは、それぞれの地区での森づくりの方向性を示します。

●地区区分図



●地区別の「森づくり方針図」の凡例

森づくり の方向性	森づくりの方向性（類型）	
		: 森づくりの方向性（類型）
		: 森づくりの方向性（みちづくり）
地区の 資源など (現況)		: 滝
		: 温泉
		: 眺望ポイント
		: 山
		: 神社
		: 寺院
		: その他資源
		: 川
		: ハイキングコース
		: 林道
		: 主な古道（昔道・尾根道など）
		: 主な道路

① 戸倉地区(戸倉財産区)

■森の特徴と地域資源

- 戸倉財産区を中心に経済林が広がっている。また、水道水源林*や間伐展示林など、手入れが行き届いた美林がある。
- 戸倉三山（臼杵山、市道山及び刈寄山）、城山などの地域を代表する山があり、それぞれ眺望が楽しめる。
- 伝名沢、千ヶ沢、金堀沢が盆堀川に、逆沢が刈寄川に流れ込み、それぞれが秋川に合流しているなど、豊かな水環境がある。

■森づくりの課題

- 後継人材の不足や木材流通条件の悪化などにより、継続が困難となっている林業を中心とした森林経営や維持管理のあり方を見直すことが必要
- よく手入れされた美林、戸倉三山、逆沢などの沢、刈寄の滝、秋川渓谷瀬音の湯などの資源を利活用することにより、森の魅力を高めることが必要

●地区の現況



※12 絞り丸太

表面に波状の縦ジワのある杉の丸太で、主に床柱として使用される。シワは、天然にできるものと、立木に竹やプラスチックの当て木を巻いて人工的に作られるものがある。北山杉が有名である。

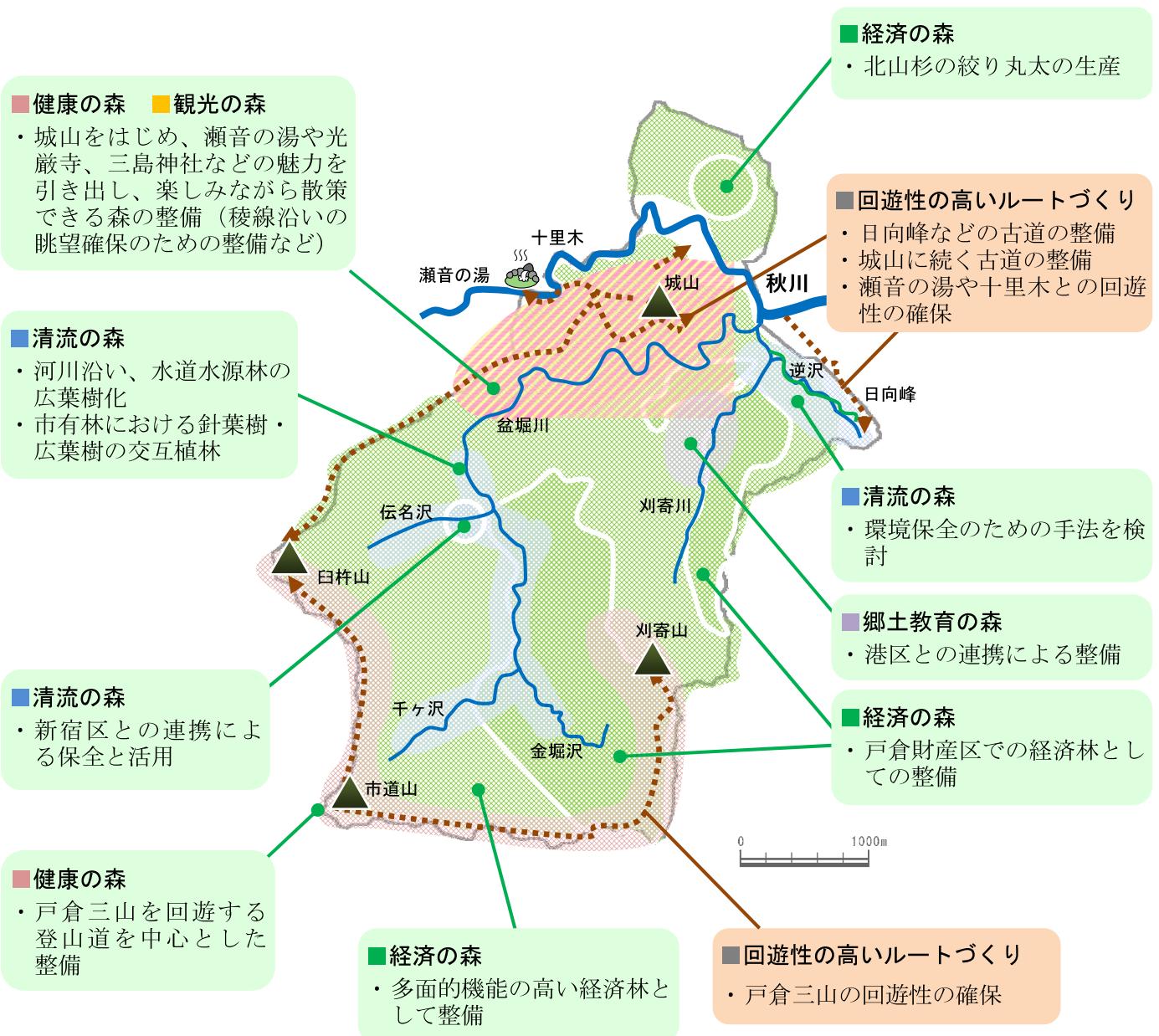
■森づくりの方針

経済林としての管理を持続させながら、沢沿いの豊かな自然景観を保全し、水道水源林としての水源かん養機能の維持を図るような森づくりを進めます。

また、城山から秋川渓谷瀬音の湯までを巡ったり、戸倉三山での登山や眺望を楽しむなど、資源を満喫しながら散策できる森を目指します。

- 経済林の新たな価値の創造・発掘（多摩産材（秋川産材）需要の向上）
- 企業など様々な主体と連携した森づくりの検討
- 自然資源（沢、滝）などに着目した活用方法の検討・発掘
- 景観整備などの自然資源の魅力を高める森づくり

●地区の将来イメージ



② 小宮地区

■森の特徴と地域資源

- 市内でも比較的標高が高いこの地区では、秋川、養沢川に沿って森が広がっている。地区の大半は、秩父多摩甲斐国立公園に指定されている。
- 滝（大滝、小滝、矢柄の滝など）、鍾乳洞（大岳、三ツ合など）、巨木（五柱神社の大スギ、養沢神社のトチノキなど）、眺望のよい場所（富士見台、馬頭刈山、上高岩山など）といった資源が豊富である。
- 市内外からの来訪者でにぎわう秋川渓谷瀬音の湯やフライフィッシング場、マス釣り場など観光施設がある。
- 地域の自治会による広葉樹林化やボランティアによる森の整備など、住民参加型の森づくりが進められている。

■森づくりの課題

- 後継人材の不足や木材流通条件の悪化などにより、継続が困難となっている林業を中心とした森林経営や維持管理のあり方を見直すことが必要
- 林道・作業道や古道などの路網整備により森への入りやすさを向上させ、地域資源を活用した人と森とのかかわりを深めることが必要

●地区の現況



大滝周辺の市有林



大滝



富士見台に続く尾根筋



馬頭刈山からの眺望



五柱神社の大スギ



秋川渓谷瀬音の湯

■森づくりの方針

養沢川源流域や大岳沢などがある森では、水源かん養や生物多様性保全といった機能を維持・向上するような森づくりを進めます。

多くの人々が訪れる秋川流域では、奥多摩に連なる山々や鍾乳洞、沢、滝、川などの自然資源を活かし、人々が楽しめるような森づくりを進め、地域の活性化につなげます。

- 手入れ・施業しやすい森づくりの展開（林道・作業道、古道などの整備）
 - 経済林としての新たな価値の創造・発掘（多摩産材（秋川産材）需要の向上）
 - 企業など様々な主体と連携した森づくりの検討
 - 自然資源の魅力を高める森づくりや自然資源を巡る回遊性の向上
 - 地域の創意工夫（養沢活性化委員会）による森づくり

●地区の将来イメージ



③ 深沢地区

■森の特徴と地域資源

- ・ 南沢のあじさい山は、毎年2万人を超える人が訪れる観光スポットである。
- ・ あじさい山、金比羅山、五日市憲法草案発祥の地である深沢家屋敷跡、深沢小さな美術館、鳥の巣石灰岩産地、集落の懐かしい家並み（茅葺き住宅）などの資源が多い。
- ・ 地区一帯は、経済林としての森が広がっている。

■森づくりの課題

- ・ アジサイが咲く時期に来訪者が集中する傾向があり、四季を通じた見どころづくりが必要
- ・ 後継人材の不足や木材流通条件の悪化などにより、継続が困難となっている林業を中心とした森林経営や維持管理のあり方を見直すことが必要

●地区の現況



■森づくりの方針

JR 武蔵五日市駅のほど近くに位置するこの地区では、南沢のあじさい山、五日市憲法草案発祥の地である深沢家屋敷跡、深沢小さな美術館などの魅力ある資源を活かし、さらに魅力を高める森づくりを進めます。

四季折々の風景を楽しめるような花木の植栽、JR 武蔵五日市駅から秋川渓谷瀬音の湯や金比羅山に至る回遊ルートの確保などを図ります。

- 四季を通じて楽しめる観光資源としての森づくり
- 林道や散策路の整備などによる回遊性の向上
- 経済林としての新たな価値の創造・発掘（多摩産材（秋川産材）需要の向上）

●地区の将来イメージ

